

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



新燃岳の火山活動、NZ地震…被災された方には心よりお見舞い申し上げます。とても他人事とは思えません。このようにJ-DAVID試験を遂行できることに、幸運を感じずにはおられません。

世話人からのメッセージ

「腎と骨：その心はビタミンD」

和歌山県立医科大学 腎臓内科・血液浄化センター
重松 隆先生

医学生の時それなりに学んだと思うが、なかなか成績が上がらず苦手意識の強い科目が二つあり、今思えば腎臓内科と整形外科であった。腎臓内科は、疾患名が混乱し苦手であった。整形外科は骨の名前の暗記が辛く力学的数式に眠くなり苦手であった。そうした人間が腎臓内科医になり、大学教官として学生を指導し骨領域を好んでいるのは不思議である。

この不思議が成り立つには、優れた幾人かの教師である恩師の先生方との出会いが有る。その過程で、いくつかの記憶に残る言葉を得た。「腎臓内科こそ全身見るんだよ」などもその一つである。その中に「腎と骨：その心はビタミンD」があった。その流れの中で、ビタミンDはコレステロールから皮膚で作られる。肝臓で代謝され腎臓で活性化されホルモンとなるなどを教わった。陸に上がってこそ皮膚はより多くの紫外線を浴びる事が可能となったのだ。しかし、もっとも印象的であったのは、生命が海で誕生し、陸に上がる時に4つの臓器：腎臓・骨・肺・副甲状腺が必要になった。という事であった。

この4つの臓器は比較的新しく、また必要に迫られて生じた臓器なのでスペアとして2つ以上出来たとも考

えられる。このうち、肺と腎は酸塩基平衡で共同作業を行っている。そして腎と骨は、骨を作るホルモンである活性型ビタミンDは腎臓で活性化され、骨とともに出来た骨髄における赤血球造血を刺激するエリスロポエチンは腎臓で作られている。このように我々の不完全な知識で



は、腎臓が一方的に骨に働きかけていたと考えていたが、骨から出来るFGF23という因子が見つかり、腎臓におけるリン利尿を促進する事が判ってきた。また素晴らしい事に、骨が出来すぎること抑制する為にFGF23は腎臓でのビタミンD活性化を抑制しているらしい事も判ってきた。最後のプレイヤーである副甲状腺と腎臓との関係は、リン利尿・酸塩基平衡以外にクロトーという腎臓でできるらしい因子も加わり、一層の密接な関係を我々は理解し始めている。

こうした世界に私に見せ、私を捕えてしまったものこそビタミンDである。新しいホルモン・未だ未完成のホルモン・ビタミンでないビタミン、このビタミンDに関する知識を広げてくれる研究の進展を願ってやまない。その研究の縁にでも参加していただきたいものである。

最近の文献から

アメリカ医学研究所(IOM)はビタミンDの骨作用のみ認め、その他の意義を払いのける

IOM endorses vitamin D, calcium only for bone health, dispels deficiency claims

Slomski A. JAMA 305: 453-454, 2011

【ポイント】アメリカ医学研究所(IOM)は、25の健康アウトカムに対して1000件近い論文をレビューしたのち、Bone health以外のアウトカム(悪性腫瘍、心血管疾患、糖尿病、免疫機能障害、多発性硬化症、子癇前症、など)に対するビタミンDの働きについて、「データがない」とのみ述べた。本論文はこれに対する2頁半にわたるコメント。

【詳しくは】http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list_uids=21285417

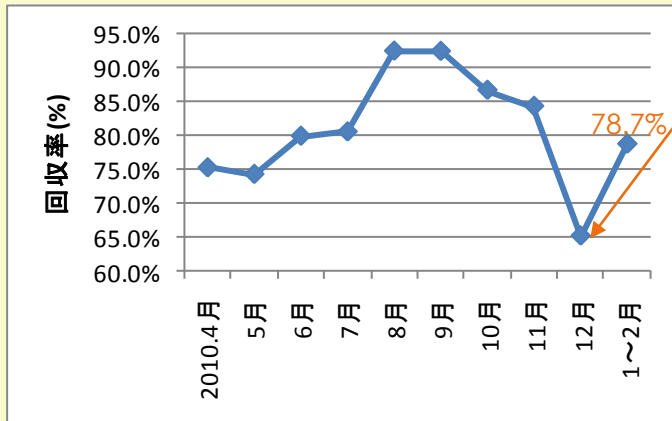
最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(2月18日現在)

症例報告書回収状況の推移

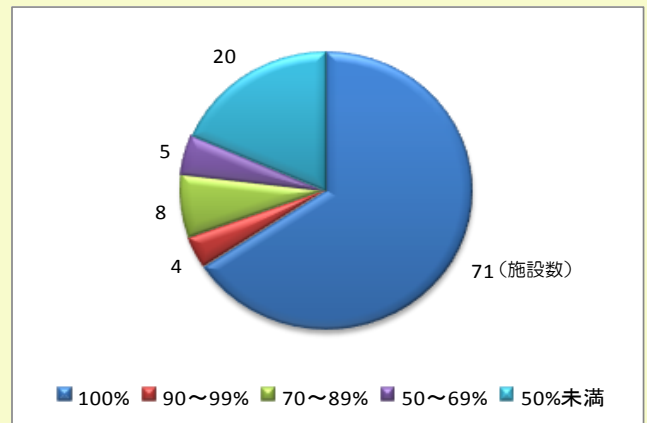
	登録	開始時	3か月	6か月	12か月	18か月	24か月	中止	脱落	イベント
11月	686	568	446	391	181	55	9	25	23	22
1月	963	627	447	393	196	79	21	29	31	24
2月	976	768	467	416	279	87	48	36	34	29

観察開始時CRF回収率



12月は登録が多かったため、一時的に回収率が落ち込みました。

観察開始時CRF回収率(施設別)



**観察開始時CRFの
100%回収を急いでいます!**

J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



「観察開始時CRF」の提出をお願いいたします

「症例報告書(観察開始時)」をまだ提出されていない症例につきましては、速やかにご記入いただき、ご送付くださいますようお願いいたします。全ての観察開始時CRF回収・データクリーニング後ベースラインデータが確定しますので、ご協力よろしくをお願いいたします。

未回収のCRF及びDCFをお知らせいたします

3月4日を目途に、CRF(症例報告書)及びDCF(内容確認書)の回収一覧を、各施設へFAXにてお知らせいたします。お手元に届きましたらご確認ください。未提出のCRF、また未回答のDCFがございましたら、ご送付・ご回答くださいますようお願いいたします。

イベントや重篤な有害事象が発生した場合

イベントや重篤な有害事象が発生した場合は、速やかに症例報告書をご送付ください。ご不明な点があれば個別にデータセンターまでお問い合わせください。

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪府阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分沁病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

ホームページもご覧下さい。
<http://j-david.info/>